

- 原, 大阪醫學會雜誌. 大正4年(第14年). 12) 小林, 醫學新聞. 第922號. 大正4年3月. 13) 中尾, 兒科雜誌. 第206號. 大正6年7月.  
 14) Kraus, Über die Antikörper in d. Milch. Zentrbl. f. Bakt. Bd. 21, 1897, S. 592. 15) Schuhmacher, Übergang der Agglutinine auf den  
 Foetus, Zeitschr. f. Hyg. Bd. 37, 1901, S. 337. 16) Stänbli, Experimentelle Untersuchung über die Ausscheidung der Typhusagglutinine.  
 Zentrbl. f. Bakt. Bd. 33, 1903, S. 375. 17) 岡本京太郎, 兒科雜誌. 第21號(大正7年4月). 18) 天竺節郎, 臨牀病理血液學雜誌. 第1卷.  
 2號. 99頁(昭和7年12月).

## 『土佐熱』に關する研究 (第一報)

高知市 下 村 次 男

### 目次

- 第一章 緒言  
 第二章 疫學的觀察  
 第三章 臨牀的觀察

- 第四章 血清學的検査  
 第五章 秋疫A型症の證明  
 第六章 結論

### 第一章 緒言

高知縣高知市及近接町村の比較的低濕地方に俗稱土佐熱と言はるゝ一種特有なる流行性熱性疾患ありて毎年梅雨期に初發患者を見秋季殊に九月十月の候に至れば最も多く發生を見るものなり。

本病は本縣に於ては仁淀川下流の兩岸以東殊に長岡、香美兩郡の平野及物部川兩岸を發生地とし安藝郡にありては只海岸線に沿ひて散在し其他の地方には稀に發生を見るものなり。

本市に於ては南端を貫流する鏡川下流の沿岸を發生地とするものゝ如く一般には市の中央部より下方の低濕地に發生するもの多し。

本病は明治初年頃既に發生を見當時は「ガンドウ」と稱し「オコリ」即ち「マラリア」病と區別せしものゝ如く、發病の初めは猛烈なる惡寒發熱を以つてし次で頸部淋巴腺の腫脹壓痛之れに伴ひ高熱時には特に咳嗽を發し顔面蒼白を來し流行性に發生せしことありと言ふを見れば今より五、六十年前より住民の注意を引く程地方病として濃厚に存在したるものゝ如し。

余は十數年來本症患者約三百名を経験したる最初は抗「キニーネ」性の「マラリア」症として所置し時には「チフス」結核等と區別困難なる例症に遭遇したりしが其後百餘例に就て臨牀的所見を詳細に觀察するに及び本症は一種獨特の熱性疾患なることを認め土佐熱なる名稱を用ひ獨立したる熱性疾患として取扱ひつゝありしが本病は所により人により名稱を異にし秋熱、腺熱、秋ぶ、とも言はれ居るものなり。

然るに本症の流行がワイル氏病及秋疫、七日熱病の流行と季節を同じくするを以つて時にワイル氏病不全型又は秋疫、七日熱症と混同せられ殊に大正五年井戸氏及其共同研究者が本症患者の恢復期血清は七日熱「スピロヘータ」に反應ありとなし七日熱「スピロヘータ」による疾患なりと言ひしより日本の「レプトスピラ」性疾患の一流行地として知られたり。

現今發生の季節及流行地の形、臨牀上の所見等本症に類似し居る疾患が熊本縣内にもありて鏡熱と言はれ大正十四年佐藤、太田原氏は流行性腺熱と名稱を附して病原の研究に従事し學界の注意を引きたり、次で明石氏は多くの文獻と自己の經驗例を擧げ臨牀並びに疫學的に記載し又徳嶋縣地方にも臨牀上本症と類似の疾患の嘗てありしことを鈴江氏も亦報告せられ、更に昭和八年小嶋氏(熊本)により八代町地方に於ける鏡熱に就て統計的報告ありたり。

是等學者によりて研究せられたる鏡熱が果して高知市の土佐熱と同一なるや否やは未定なれども熱型並びに臨牀上所見に於て極く近似せる疾患なることは疑ひ得ざるものにして本病の特有とする惡寒の状態が「マラリア」症に近似し全身皮膚の發疹及時に皮下溢血點狀を呈することが輕症ワイル氏病の出血斑と誤り顔面及全身皮膚の特有なる蒼

白と頸部淋巴腺の腫大が時に結核と誤診せられ熱の弛張が「チフス」と誤まれ流行地在住の醫家をして今尙ほ診斷を苦しめつゝあるものなり。

然るに昭和二年小嶋、金山兩氏は高知市に以上の如き特異熱性疾患の存在することを患者十二例に就て報告し其細菌學的研究には何等病原體と認むべきものなきを報告したり、然し乍ら此の報告は患者例僅少なりし爲土佐熱の全般に就ては論據や、薄弱の感ありたり。

余は今回東京帝國大學教授高木逸磨博士の御指導を得て本症恢復期患者の血清學的研究を終へ患者一〇三名の臨牀例を詳細に調査し本症が「チフス」結核「マラリア」ワイル氏病不全型、秋疫A型、七日熱症にあらずして全く獨立したる病原不明の汎發性淋巴腺腫脹を伴ふ熱性疾患なるを知り茲に報告して大方先輩の教へを乞はんとするものなり。

而して今回土佐熱恢復期患者血清の免疫學的研究の對照として實驗したるワイル氏病不全型症より新たに本縣にも秋疫A型症の存在することを確め得たるを以つて茲に併せて報告せんと欲するものなり。

## 第二章 疫學的觀察

### 調査成績

昭和四年七月以降同九年十二月迄余の診を乞ひたる土佐熱患者數一〇三名に就て發病日順に之れを列記し諸種の條項を統一して土佐熱の種々相に付いて觀察を加へ本病の疫學的考案を加へんことを欲す。

調査表

番號	氏名	年齢	性別	職業	發病年月日	發生地	其他及誘引	番號	氏名	年齢	性別	職業	發病年月日	發生地	其他及誘引
1		44	♂	會社	4, 7, 26	鏡川下丸山臺	水泳	4		26	♂	商	5, 8, 23	綾町	
2		32	♀	無	4, 9, 22	日出町		5		43	♂	大工	5, 8, 24	下知	
3		5	♀	無	4, 10, 17	日出町		6		11	♀	學生	5, 8, 27	常盤町	水泳

7		4	♀	學生	5, 8, 27	常盤町			36		30	♀	鐵工	7, 1, 15	農人町裏	
8		26	♀	外交員	5, 8, 28	青柳橋	裸足にて遊ぶ		37		40	♀	船員	7, 3, 30	農人町裏	
9		13	♀	學生	5, 9, 3	緑町			38		31	♀	無	7, 5, 23	海岸通	
10		19	♀	女中	5, 9, 7	城見町			39		22	♀	無	7, 5, 25	市外彌衛門池	魚釣り
11		19	♀	無	5, 9, 9	海岸通	裸足となる		40		26	♀	無	7, 7, 23	中山町	
12		25	♀	電線工	5, 9, 12	南新町			41		25	♀	料理人	7, 9, 14	東種崎町	
13		34	♀	商	5, 9, 13	下知住宅			42		22	♀	洋服工	7, 9, 21	東種崎町	
14		3	♀	無	5, 9, 15	田淵	水田中に遊ぶ		43		15	♀	無	7, 9, 22	三條通	
15		10	♀	學生	5, 9, 16	下知田の中	同上		44		19	♀	無	7, 9, 23	緑町	
16		13	♀	學生	5, 9, 18	茶田場			45		25	♀	無	7, 9, 27	中新町	
17		33	♀	無	5, 9, 28	農人町			46		26	♀	無	7, 10, 15	農人町裏	
18		4	♀	無	5, 9, 28	三條通			47		32	♀	無	7, 10, 12	緑町	
19		22	♀	理髮	5, 9, 29	下知			43		22	♀	船妓	7, 10, 12	新地主の尾樓	
20		22	♀	無	5, 10, 28	田淵			49		14	♀	學生	7, 10, 17	f新地	
21		25	♀	力士	6, 5, 28	東京市			50		35	♀	無	7, 10, 15	緑町	
22		19	♀	商	6, 8, 26	大正町	降雨に裸足となる		51		39	♀	無	7, 10, 18	緑町	
23		14	♀	學生	6, 8, 30	農人町裏			52		25	♀	無	7, 10, 26	平安町	
24		44	♀	無	6, 9, 5	緑町			53		37	♀	無	7, 10, 27	日出町	
25		14	♀	學生	6, 9, 5	葛島村			54		50	♀	商	7, 10, 28	大正町	
26		26	♀	製材	6, 9, 13	葛島村			55		21	♀	商	7, 10, 31	農人町裏	
27		30	♀	料理業	6, 9, 16	農人町裏			56		15	♀	學生	7, 11	葛島村	
28		8	♀	學生	6, 9, 19	農人町裏			57		18	♀	學生	7, 11	常盤町	
29		17	♀	無	6, 9, 19	一番小路			58		28	♀	職工	7, 11, 15	農人町	
30		44	♀	無	6, 10, 13	理立新地			59		8	♀	學生	7, 11, 20	三條通	
31		21	♀	無	6, 10, 14	緑町			60		26	♀	商	8, 8, 28	農人町裏	
32		33	♀	無	6, 10, 20	日出町			61		23	♀	無	8, 9, 15	農人町	
33		27	♀	仲席	6, 10	緑町			62		13	♀	學生	8, 9, 25	海岸通	
34		36	♀	商	6, 11, 1	后免町			63		15	♀	職工	8, 10	農人町裏	
35		20	♀	無	6, 11, 22	城見通裏			64		28	♀	女中	8, 10, 1	城見通	

下村『土佐縣』に關する研究

65	14	♂	洋裁	8, 11, 1	城見通		85		8	♂	學生	9, 8, 5	5	緑 町	
66	60	♀	無	8, 10	鐵砲町		86		4	♂	無	9, 8, 6	6	下知町	
67	6	♀	無	8, 10	下 知		87		25	♀	娼妓	9, 8, 12	12	下知泰陽樓	
68	34	♀	仲居	8, 10, 15	綠 町		88		32	♂	庭造り	9, 8, 22	22	農人町裏	
69	14	♀	學生	8, 10, 17	下 知		89		34	♀	無	9, 8, 22	22	田 淵	
70	13	♀	學生	8, 10, 16	大島村		90		26	♂	職工	9, 9, 11	11	朝倉村	
71	35	♂	木炭業	8, 10, 21	海岸通		91		23	♀	藝妓	9, 9, 17	17	海岸通	
72	19	♀	藝妓	8, 11, 3	海岸通		92		8	♂	學生	9, 9, 20	20	不安町	
73	16	♂	商	8, 11, 6	日出町		93		20	♂	大工	9, 9, 29	29	中山町	
74	30	♂	會社員	8, 11, 26	綠 町		94		39	♂	雜夫	9, 10, 3	3	理立新他	本年罹病者あり
75	9	♀	學生	8, 11, 23	普盤町		95		16	♀	學生	9, 10, 6	6	三條通	同上
76	31	♂	商業	8, 12, 14	青柳橋北		96		66	♂	無	9, 10, 13	13	常盤町	
77	29	♀	商	9, 5, 28	菜田場		97		30	♀	仲居	9, 10, 14	14	青柳橋	
78	12	♀	學生	9, 6, 8	葛島村		98		20	♀	娼妓	9, 10, 18	18	理立新地	本年罹病者あり
79	8	♂	學生	9, 6, 15	三條通		99		34	♀	無	9, 10, 21	21	常盤町	
80	36	♂	左官	9, 6, 24	豊人町		100		16	♀	學生	9, 11, 1	1	日出町	一年前罹病者あり
81	9	♂	學生	9, 7, 5	下 知		101		8	♀	學生	9, 10, 3	3	日出町	本年罹病者あり
82	19	♀	理髮業	9, 7, 17	中山町		102		26	♀	理髮業	9, 12, 5	5	帯屋町	
83	20	♀	學生	9, 7, 21	三條通		103		13	♀	學生	9, 12, 7	7	日出町	本年罹病者あり
84	36	♂	無	9, 7, 26	海岸通	隣家におり 前年罹病者あり									

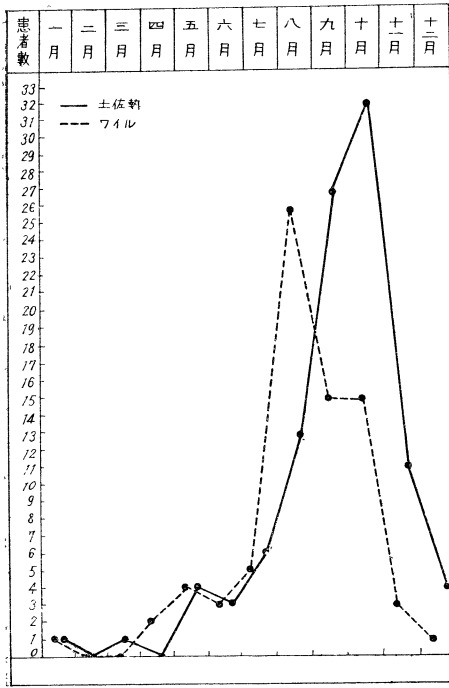
患者發生數

余の診を乞ひたる一ヶ年間に於ける患者數を昭和四年以降同九年迄の六ヶ年間に就て見るに上表の如く毎年二〇名内外にして昭和七年及九年は稍々多數にて近年漸増の傾向を示しつゝあり。之れを同じく當市に地方病として存在する「レプトスピラ」病の余の診察を乞ひたる者との比を見るに地方病としての存在は相當濃厚なるを認めたり。

更に茲に最も興味ある一事はワイル氏病患者發生の少なき年に本病患者の多く現はるゝものゝ如く、即ち

	計	女	男
昭和四年	3	2	1
五年	17	6	11
六年	15	7	8
七年	24	10	14
八年	16	8	8
九年	28	15	13

下村Ⅱ「土佐熱」に關する研究



ラ」及七日熱「レプトスピラ」を病原とせる 静岡縣大井川左岸に

疾患別	最大發生月
ワイル	八月
秋疫A型症	九月
土佐熱	十月

然かも本邦に於ける「レプトスピラ」病中秋疫A型「レプトスピラ」を病原とせる 長崎縣波佐見村に毎秋流行する波佐見熱が、小鳥居、雨森兩氏の報告により其最大發生月は九月なるを示され亦同じく秋疫A型「レプトスピ

月別

	ワイル	土佐熱
昭和四年	15	3
五年	11	17
六年	9	15
七年	13	24
八年	17	16
九年	11	28

本病患者發生ミワイル氏病患者發生ミは必ずしも併行するものにあらずして寧ろ反對現象を示すことなり。例之昭和九年の如きは本病患者の最も多數發生を見たるに對しワイル氏病患者は例年に比し少數にて然も輕症者多き事實ミ昭和四年及八年はワイル氏病患者の發生多きに對し本病患者は比較的少數なるを示し即ち本病發生ミワイル氏病發生ミの間には何等かの關係を有するものゝ如し。

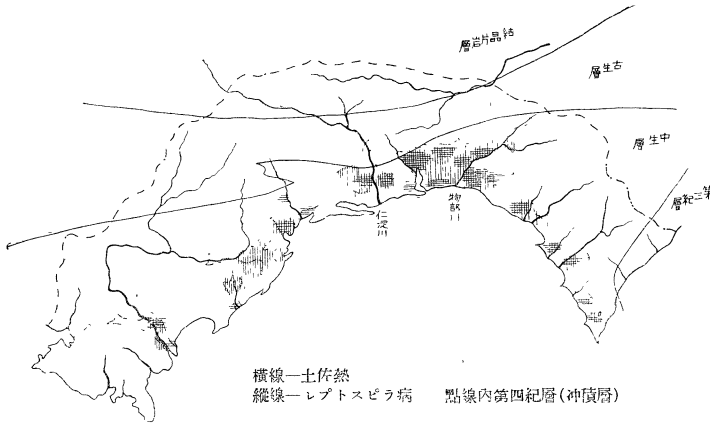
患者發生は既往六ヶ年間に於て毎年五月下旬より六月中に初發を見るを常とし其れより月共ニ數を増加し九月、十月には最高に達し十一月以降は次第に減少して一月乃至四月迄は、一、二名の例外的患者の發生あるのみにて全く影を潜めるを常とす。故に本市に於ける本症の流行季節は大體五月より十一月迄と言ふを得べく明石博士及小嶋(三郎)氏の熊本縣に於ける鏡熱の流行季節

ミ比較するに大略相似たり。更に之れを本市に於けるワイル氏病流行季節ミ比較する時は其最大患者發生月はワイル氏病流行期よりも二ヶ月遅れたる十月を示せり。即ち上表の如し。

下村Ⅱ「土佐熱」に關する研究

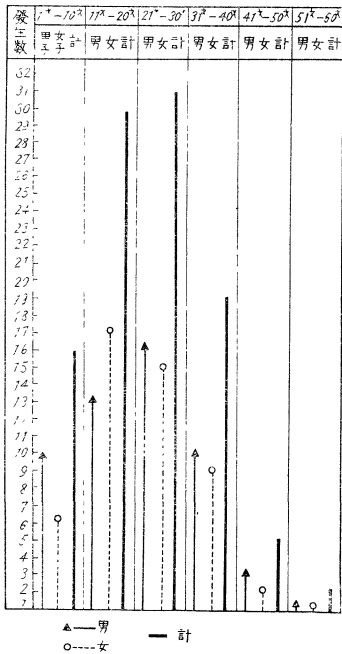
流行する秋疫が北村氏により同じく九月を以つて其最大發生月なりと言はれ、是等「レプトスピラ」病の發生時期と本病の其れと比較する時は上表の如き順序となり。實に興味深き所なり。

地理的關係、大體に於て本病とワイル氏病とは流行地域を同じくするも本病發生地に於て必ずやワイル氏病の發生を見るものにあらず。亦ワイル氏病發生地に本病の發生を知らざるこも有るも兩者は地形、地質、土壤等が同一條件の下にあるものゝ如し。即ち仁淀川下流の兩岸以東、高知市近傍、香長平野、及物部川兩岸を主として安藝郡にありては海岸線に沿ひたる町村に於て本病及



年 齡

ワイル氏病の發生を見是等好發生地は地勢的には大小河川及其支流による低濕地帯にして水田を有し亦地質學的には第四期新生層に屬し沖積層を主とし所により洪積層に一致し、其他の非流行地域にありては中生層多くして古生層及結晶片岩層に到る。高岡、幡多兩郡の如きは一般に中生層に屬し須崎、久禮、窪川、中村、下田等の所々に於て微に沖積層、洪積層を有し、而して疾患發生も亦稀に見るものなり。斯の如く本病及「レプトスピラ」病の流行地域が第四期新生層に一致することは流行病學的に興味あるものと言ふべし。



本症に侵さるゝ者の年齢は男は二十一歳—三十歳迄の壯年者に多く、女子は十一歳—二十歳の頃を最多とし、幼少、老年者は著しく減少し居るを

認む。  
 之れを一層詳細に記載するに左表の如く、

年齢	男	女	年齢	男	女
1	0	0	31	1	1
2	0	0	32	1	2
3	1	0	33	2	0
4	1	2	34	1	3
5	0	1	35	1	1
6	0	1	36	2	1
7	0	0	37	0	1
8	6	1	38	0	0
9	1	1	39	1	0
10	1	0	40	1	0
11	0	1	41	0	0
12	0	1	42	0	0
13	2	3	43	1	1
14	5	0	44	2	1
15	3	0	45	0	0
16	1	2	46	0	0
17	0	0	47	0	0
18	0	0	48	0	0
19	1	5	49	0	0
20	1	3	50	0	0
21	2	0	51	0	0
22	2	2	52	0	0
23	0	2	53	0	0
24	0	0	54	0	0
25	4	2	55	0	0
26	5	3	56	0	0
27	0	1	57	0	0
28	1	1	58	0	0
29	0	1	59	1	0
30	2	2	60	0	1

66歳男1人例外

一、二歳の乳兒に患者の發生は皆無であり、男は八歳より二十六歳迄に最も多く感染し、女は十三歳より二十六歳迄を最多とし、次で男女共に二十七歳より四十四歳迄は患者の發生を見るけれ共四十五歳以上になりての

發生患者は一、二の例外的發生を認むるのみなり。

是れを明石、太田原博士及小嶋(三郎)氏等の鏡熱の例に比較するに兩者によく合致するを認め土佐熱、鏡熱は共に壯年者を最も多く侵すもの言ふを得べく、之れ一八八九年バイフェル Pfaffler が腺熱 Drüsen feber として學界の注意を喚起したる疾病は患者發生の年齢的に差異あるを認め得べし。

男女別

性別	男	女	合計
年齢			
1—10	10	6	16
11—20	13	17	30
21—30	16	15	31
31—40	10	9	19
41—50	3	2	5
51—60	1	1	2
合計	53	50	103

男女別の罹患数の差異は別表の如く男女共にほぼ同數にして女にありても中年者に多く幼年老年者に少く男五三名に對して女五〇名にして男性の最多が二十一歳—三十歳の間にあるに比し、女性の最高は十一歳—二十歳の間には存在するは男女發育の差によるものなるべく、之れを先輩諸氏の報告を照し合するに太田原、藤田、保田、明石、小嶋(三郎)氏等の鏡熱に就ては男二二に對し女一である言ふに反し、小嶋、金山兩氏の當縣に於ける不明熱(土佐熱)の調査に於ては男七名に對し、女五名で稍々同數であること、余の土佐熱の場合に近似し、之れを表示するに左の如くなりて土佐に於ける土佐熱は熊本に於ける鏡熱に比し女の罹患率が明かに多數なるを認めたり。

下村『土佐熱』に關する研究



下村II「土佐熱」に関する研究

職業別

熱	鏡			調 査 者	調 査 人 員	計	比
	太田原	藤田	保田				
男	二六	七三	四三	一八	七	五〇	一〇三
女	三三	一一〇	二四	九三	五	一〇三	男1.1:女1
計	五九	一八三	六七	一一一	一二	二二二	男2.2:女1

職業	男	女	計
學生	15	10	25
商業	11	7	18
職工	5		5
理髮業	1	2	3
酌婦		3	3
娼妓		3	3
會社員	3		3
大工	2		2
女中		2	2
洋服裁縫	2		2
藝妓		2	2
力士	1		1
製材業	1		1
船員	1		1
木炭業	1		1
左官	1		1
雜夫	1		1
庭園造	1		1
無職	8	20	28
計	53	50	103

罹患者の職業別に關しては其土地の産業發達の狀況を關係を有するが故に妄りに

論ずるを得ざれ共當市に於ては學生最も多く商業者之れに次ぎ無職者の最多數なるは婦女の無職者多きを加入したるが故に嚴正の意

味に於ける職業者として男を中心に考ふれば學生の最も多きを當然とすべきなり。  
 學生の多き理由は壯青年に本病の罹感者多きが故にして感染率の最も高き年齢が男女の學に從事する年齢なるが故なるべし。然かも流行を同じくする「レプトスピラ」病は水を直接又は間接に關係ある職業者に罹患者多きものなるに比し重要な相違點にして外出の機會少なき屋内居住者に相當の發病者を見るは特定の病原地に接近したる者の罹感するワイル氏病と異なり寧ろ病原が屋内に迄侵入し來たるかを想像せらるべく然かも流行地以外に廣く發病者を出さざるは流行病學的に重要な興味を有するものと言ひ得べし。斯の如く觀察し來たる時は興味を引き且つ重大なる意義を有するは本病の家族感染の有無なりとす。

家族傳染

鏡熱の家族的發生に就ては佐藤、藤田、保田、明石の諸氏は之れを認むるも人より人への傳染は經驗せずと言ふことは原蟲病の如く中間宿主を介して傳搬するならんを想像するが故ならんも原蟲病なりと言ふ事實は認められず一時に同一家族より多數發生するこゝは少なく極めて散發性に發生すと言ふ程度なり。

余の土佐熱に於ける例にては同一家屋内より患者の發生を見たるは十四例なるが、第一患者より第二患者迄の發生日數の遠きものは本病の如く病日三週間以上は稀なる亞急性疾患にありては家族傳染なりや二次的に病原の侵入し感染せしものなりや不明なり。更に詳

家族發生間隔表

第一患者名	第二患者名	感染迄間隔
	→	三日
	→	二五日
	→	八ヶ月二三日
	→	二五日
	→	二ケ年五日
	→	二二六日
	→	三三六日
	→	十四ヶ月十五日
	→	五一日
	→	五十五日
	→	三七日
	→	三七日

下村II『土佐熱』に關する研究

説すれば

(一) の家族は同日、の家族は三日間の間隔を以つて發生せるも家族傳染とも認め難く病原體の同時に感染せるものと想像し得べく共に二週型の普通症なり。

(二) の例は二十五日間の間隔を有し第一患者は有熱期間二十二日を要し第二患者發生の際には第一患者は恢復期に相當し牀上に横臥せるの時期なり。

、の例は五十二日間の間隔を有し間隔稍々長きが如きも本例は第二患者の( )有熱期間五十日に達し、余の經驗したる百〇三例中最長病日を要したるものにて従ふて第三患者發生時は第二患者は下熱後二日目にて恢復期に屬し就牀中の者なり。

、の例は殆んど同一の發病にて第二患者( )より三二乃至六日間の間隔を有し第二患者の下熱後二週間に發生せり。

右三例は家族傳染と看做して可なるべく少數例に於て家族感染も可能なりと言ひ得べきのみなり。

(三) の例は第一患者發生より十四ヶ月十五日を要し

、の例は第一患者發生より八ヶ月二十三日を要し

、の例は第一患者發生より五十一日を要し

、の例は第一患者發生より七十五日間を要し

、の例は と同居者にて第一患者より六十六日間を要し

、の例は第一患者より二ケ年五日の間隔を要したり。

右六例は其發生間隔最長二ケ年五日短かきも五十一日間を要し事實上患者恢復後凡三十日間以上の間隔を有し直接家族傳染とは認め難く、而かも其間何等か家族的の關連を有し本病原體は相當期間家屋内に残り、或は中間宿主を介して第二、第三患者の發生を見るものゝ如く考へらるゝものなり。

感染の誘因

感染の誘因を認むべきものは確然せずワイル氏病の如く水に直接の接觸、手足に切創、昆

蟲の刺傷等の自覺的原因を認めらるゝものはなけれ共發生地の地理的關係、家屋附近の狀況等詳細に觀察する時は不文律ながら一定の條件が具備し居るが如く考へらる。

本編に關しては鋭意調査中に屬するも今日迄の經驗に依れば、

一、患者發生の家屋は濕地に存在するこゝ

一、家屋の周圍には汚水停頓せる溝、又は水田、雜草の繁茂せる低濕地の存在するこゝ

等にして之れに合致する標準的とも言ひ得べき發生家屋の例を二、三例せんに

#### 第一例

#### の例

本家屋は二軒隣接し患者三名連續發生せる家屋にして寫眞及略圖に示す如く家の二方は汚水充滿して全く水流なき溝にして、其兩岸には雜草深く茂りて無數の昆蟲飛揚し居り他の二方は水田にて毎年水稻を作ると言ふ。

#### 第二例

#### の例

最も興味を引きたる例にて此の家屋は鏡川下流の三角洲に存在し元料亭なりし頃毎日出入する多くの者に患者の發生はなかりしが、然るに此家屋に新たに宿泊せる全家族三名は同年中に連續發病するを見たり。

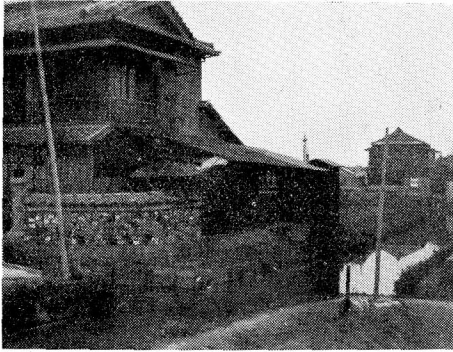
此の家屋も亦寫眞及略圖に示す如く家の周圍は水量豊かなる吸江灣にして、三角洲は一體に雜草繁茂し滿潮時は殆んど此の雜草は水中に没することあり、此の家に健康人來り住むことに依り土佐熱に罹患し然かも宿泊せざる時は發病せざりしより想像するに夜間に病原體保有の何物かが住居に侵入し人を罹患せしむるならずやと考案し得べきものなり。

#### 再感染

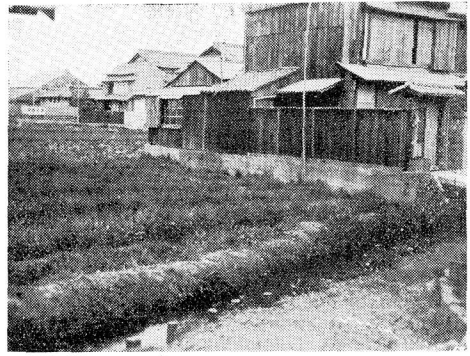
本病は一度感染すれば病の輕重を問はず終生免疫を得らるゝらしく再感染例も見らるべきは僅かに二例、中川及び嶋田にて中川は一ヶ年目に、嶋田は十四ヶ月目に再感染し第二回發病は共に症狀非常に軽く經過し殆んゞ本病を疑ふ程度にて有熱期間は中川に於て十二日間、嶋田に於て十日間なりき。

下村『土佐越』に関する研究

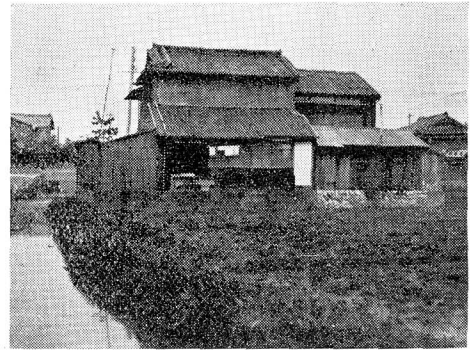
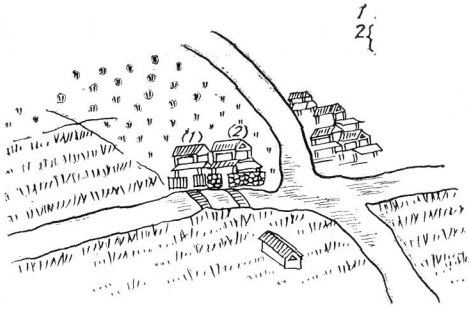
第一例



家屋

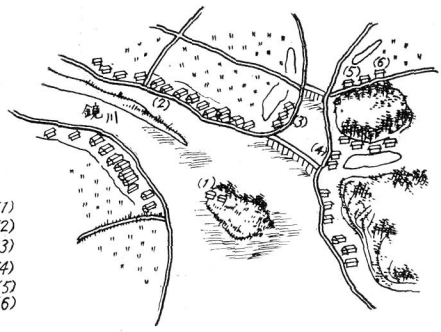


家屋



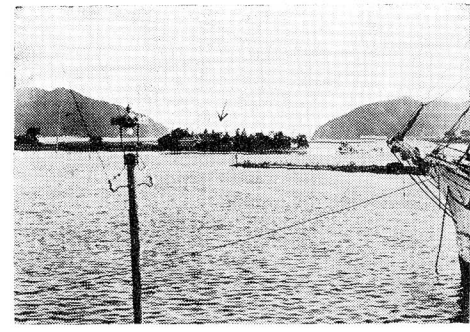
家屋の裏

第二例



二九五

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)



家屋

以上疫學的に述べたる事項を茲に小括すれば

- 一、患者發生數は年により増減し昭和七年及九年は特に多きを示し然もワイル氏病患者發生數は反比例す。
- 一、患者發生の季節は毎年九月、十月を最多として之れをワイル氏病流行期に比較すれば其最高發生月は二ヶ月遅るゝものゝ如し。
- 一、患者發生の地理的關係は一般に河川に沿ひたる低濕地帯にして地質學的には第四紀新生層即ち沖積層に一致し本病流行地域に「レプトスピラ」病の流行地域は全體に於て近似するも必ずしも一致するものにはあらず。
- 一、罹患者の年齢は壯年者に多く女子は男子よりも若年にして罹病するもの多し。
- 一、本縣に於ける土佐熱罹患者は男女の性別に大差なく殆んど同數にて熊本縣に於ける鏡熱の男子は女子の二倍以上なるに反し女子の罹感數多きを示せり。
- 一、本病は職業的に直接水と關係ある者に多しと言ふにあらず寧ろ屋内營業者に相當多きを見「レプトスピラ」病の如く病原地に接觸したるが故に發病するものにはあらずして病原其ものが屋内に迄侵入し來り感染すること想像し得べし。
- 一、余は本症患者百三例中十四例に於て家族的發生を認めたるも人より人に傳染せるや媒介者の存在による感染なるや不明なり。
- 一、感染の誘因を認むべきものは明かならざれ共發生の地理的關係並びに發生家屋には誘因を認むべき一定の條件の存在することを知る即ち低濕地、水田、河川、雜草の繁茂等が必要とするが如し。
- 一、再感染例を認むべきは稀にして一度罹患せば終生免疫の確立するを例とするが如し。(未完)